



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 48 No. 2
April 2023**

毒性学ニュース

Toxicology News

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース Contents

日本毒性学会からのお知らせ

菅野盛夫先生追悼文	13
社員総会開催のご案内と出欠票（委任状）提出のお願い	15
2023 年度年会費の納入のお願い	16
第 50 回日本毒性学会学術年会のご案内（第 5 報）	17
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第 2 報）	23
第 49 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	25

その他のお知らせ

シンポジウム「モレキュラーキラリティー 2023」	26
---------------------------------	----

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について



故 菅 野 盛 夫 先 生 御 略 歴

菅野盛夫 (かんの もりお)

生年月日：昭和 12 年 (1937 年) 1 月 24 日生まれ

出身地：北海道札幌市

年 齢：享年 85 歳 (令和 4 年 10 月 24 日御逝去)

御略歴

1962 年 3 月：北海道大学医学部卒

1962 年 4 月～1963 年 3 月：北海道大学医学部附属病院にて実地修練

1967 年 3 月：北海道大学大学院医学研究科修了 (医学博士授与)

1967 年 4 月：武田薬品工業株式会社研究開発本部生物研究所勤務
(研究員, 専門研究員, 主任)

1976 年 4 月：武田薬品工業株式会社退職

1976 年 4 月：北海道大学医学部第二薬理学講座教授

2000 年 3 月：同上定年により退職

主な著書

最新薬理学 (講談社サイエンティフィック, 1988 年)

日本毒性学会への御貢献

理 事：1987 年 4 月～1990 年 3 月; 1990 年 4 月～1993 年 3 月;

1996 年 4 月～1998 年 12 月

Journal of Toxicological Sciences 第 2 代編集委員長：1987 年～1993 年

第 21 回学術年会長 (札幌, 1994 年)

菅野盛夫先生 追悼文

日本毒性学会 名誉会員の菅野盛夫先生におかれましては、令和 3 年 (2022 年) 10 月 24 日に 85 歳で御逝去されました。心よりお悔やみ申し上げます。惜越ながら、菅野盛夫先生の直弟子の一人として、謹んで追悼文を記させていただきます。

菅野盛夫先生は、本学会の評議員を 25 年、理事を 3 期 8 年 9 ヶ月務められ、その間、第 21 回学術年会長として本学会を牽引されました。2007 年以降は功労会員、2012 年以降は名誉会員として長年に亘り日本毒性学会の発展のためにご尽力を賜りました。

菅野盛夫先生が主宰された第 21 回日本毒科学会学術年会は、今から 29 年前、平成 6 年 (1994 年) の 6 月 8 日から 10 日までの 3 日間、爽やかな緑影に囲まれた北海道大学構内にある交流会館、クラーク会館と、百年記念会館を会場に開催されました。この第 21 回学術年会には 600 名近い参加者があり、大変盛会でした。特別講演には、ニューヨークのコーネル医科大学から Arleen Rifkind 教授を招き、廃棄物焼却炉等での燃焼過程や製紙関係の漂白過程などで非意図

的に生成する有機塩素化合物で、発ガン性や催奇形性などがあるといわれるダイオキシンの毒性について講演していただきました。ダイオキシンの毒性作用が、ダイオキシンに特異的な受容体に結合して起こり、様々な細胞内情報伝達系に影響を及ぼすことを彼女の膨大な研究の中から紹介され、毒科学を新しい側面から研究していく上で大きな示唆を与えてくれました。また、「細胞死をめぐるトピックス」と題したシンポジウムが行われ、アポトーシスを中心に講演者に論じていただきました。プログラム細胞死の最も一般的な形態であるアポトーシスという言葉は、現在では専門外の人も知っている言葉になっていて、医学のみならず広く自然科学において注目され、一つの研究分野を形成しつつありますが、当時は、1992 年に日本でアポトーシス研究会が発足して 2 年足らずの頃で、細胞の増殖阻害の毒性に先攻してアポトーシス誘導がなされる現象の紹介など当時としては目からウロコが落ちるような内容からなり、非常に斬新なシンポジウムの企画でした。学術年会終了後は、

サッポロビール園で懇親会が行われ、参加者一同に快適な北海道の6月を十分に満喫していただき、和やかな交流が繰り広げられたことは、参加された方々の記憶に残り続けているかもしれません。

菅野盛夫先生は、北海道大学医学部薬理学第二講座の初代教授として、約四半世紀に渡ってその重責を担って来られました。教授を拝命した当時、先生は、武田薬品工業株式会社研究開発本部生物研究所主任という席にあり、大学における教官経験が全くありませんでしたので、まさに異例の抜擢でした。先生の当時の言葉を借りると、「Gessellschaft（利益社会）から、Gemeinschaft（共同社会）に移ってきた」というお気持ちだったようです。先生は、講座理念として、「細胞から生体までの薬理学」を目指し、毎年新しい実験技術を導入していき、その理念を実現されていきました。導入された新しい技術が、次から次へと他の研究に取り込まれて、新しい展開を生んでいくという「正のスパイラル」で、その結果を次々と報告してこられました。

菅野盛夫先生は、穏やかな温顔の裏には科学への鋭い批評眼があり、厳しいながらも、私達の芽が出るのを忍耐強く見守ってくださる第二の親のような存在でした。私達のことをたくさん考えてくださり、親のように叱ってくださいました。そのように先生は、後進の指導にも情熱を注がれ、50人を超える大学院生・研究生の指導にあたられ、千葉大学、富山大学、札幌医科大学、名古屋大学などへと多くの人材を輩出し、それを改めて思う時、深い畏敬の念に堪えません。

ここに先生を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

元日本毒性学会会員
第21回日本毒科学会学術年会事務局長
富山大学名誉教授
服部 裕一

社員総会開催のご案内と出欠票（委任状）提出のお願い

一般社団法人 日本毒性学会
社員（一般会員及び学生会員）各位

平素より日本毒性学会の活動、運営にご協力を賜り御礼申し上げます。

定款第4章に定められておりますように「社員総会」を、学術年会 期間中に開催いたします。本学会は一般社団法人であることから、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に基づき、学会運営の重要事項は社員総会にて決議する必要があります。社員（一般会員及び学生会員）各位におかれましては、ご出席賜りますようご案内申し上げます。

また、ご出席・ご欠席に係わらず「出欠票（委任状）」を、電磁的総会出欠（委任状）回答システムにより事前にご提出下さい。なお、本委任状回答システムへの入力のご案内は本年4月以降にメール等にてご連絡させていただく予定です。

社員総会の決議には、定款第24条に定められておりますように、総社員（一般会員及び学生会員）の議決権の「過半数」を有する社員の出席が必要です。定足数に満たない場合は社員総会として成立しなくなり、重要な議決事項が決定できず、本学会の運営に大きな支障を来すことになります。社員総会にご欠席される場合には、必ず委任状をご提出されますよう、重ねてお願い申し上げます。

また、お近くの会員の方に、社員総会へのご参加または委任状のご提出をお勧めくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

2023年度一般社団法人日本毒性学会 社員総会

日時：2023年6月20日（火）13時15分～14時55分

場所：第50回日本毒性学会学術年会 第1会場（パシフィコ横浜 会議センター 1F メインホール）

- 議案：1. 2022年度事業報告および収支決算
2. 2023年度事業計画および収支予算
3. その他

以上

2023年4月1日
一般社団法人日本毒性学会
理事長 務台 衛

2023 年度年会費の納入のお願い

一般社団法人 日本毒性学会
社員（一般会員及び学生会員） 各位

日本毒性学会定款第 11 条（会費）に基づき、2023 年度の会費の納入を受け付けております。会費は日本毒性学会の運営・活動の原資となりますので、年会費の納入をお願いいたします。

2023 年度 一般社団法人日本毒性学会 年会費

- 一般会員： 9,000 円
- 評議員： 12,000 円
- 学生会員： 3,000 円

評議員および一般・学生会員は会員専用マイページの会費納入状況のページより年会費のクレジットカード決済が可能となっております。2022 年度以前の未払いの年会費についても、同様の手続きでクレジットカード決済が可能です。事務経費節減のため、できるだけクレジットカード決済を用いた年会費の納入をお願いいたします。

ログイン URL：<https://area31.smp.ne.jp/area/p/mdkj9lftes8mjqt9/g7DahB/login.html>

郵便振込による会費納入をご希望の場合は、振込先口座情報をマイページの会費納入状況画面にてご案内いたしております。

なお、5 月末日までにクレジットカードか郵便振込による会費納入が確認できなかった会員宛には、6 月以降、郵便振込用紙を順次郵送します。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

一般社団法人日本毒性学会
理事長 務台 衛
総務委員長 小椋 康光

第 50 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 5 報)

(年会ホームページ : <https://jsot2023.jp>)

* 本年会は現地 (対面) 開催を予定しております

1. 会 期

2023 年 6 月 19 日 (月) ~ 6 月 21 日 (水)

2. 会場

パシフィコ横浜 会議センター

〒 220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1

Phone : 045-221-2155 (総合案内)

URL : <https://www.pacifico.co.jp>

・みなとみらい線 みなとみらい駅より徒歩 5 分

・JR 京浜東北線・横浜市営地下鉄 桜木町駅より
徒歩 12 分

黄 基旭 (東北医科薬科大学)
堀井 郁夫 (ファイザー (株))
増村 健一 (国立医薬品食品衛生研究所)
宮脇 出 (住友ファーマ (株))
務台 衛 ((株) LSIM 安全科学研究所)
森 和彦 (第一三共 RD ノバーレ (株))
山本 千夏 (東邦大学)
吉田 武美 ((公社) 薬剤師認定制度認証機構)
吉成 浩一 (静岡県立大学)

(五十音順)

3. テーマ

毒性学ってなんだ? —そしてその先へ—

4. 年会長

北嶋 聡

(国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 毒性部)

5. 企画委員会 (敬称略)

安西 尚彦 (千葉大学)
石塚真由美 (北海道大学)
上原 孝 (岡山大学)
小川久美子 (国立医薬品食品衛生研究所)
小椋 康光 (千葉大学)
小野 竜一 (国立医薬品食品衛生研究所)
諫田 泰成 (国立医薬品食品衛生研究所)
菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所)
熊谷 嘉人 (筑波大学)
桑形麻樹子 (国立医薬品食品衛生研究所)
齋藤 文代 (岡山理科大学)
渋谷 淳 (東京農工大学)
杉山 圭一 (国立医薬品食品衛生研究所)
鈴木 睦 (協和キリン (株))
高橋 祐次 (国立医薬品食品衛生研究所)
種村健太郎 (東北大学)
角崎 英志 ((株) 新日本科学)
平林 容子 (国立医薬品食品衛生研究所)
広瀬 明彦 ((一財) 化学物質評価研究機構)

6. 特別企画 (予定, 仮題, 敬称略, 順不同)

1) 年会長招待講演

「Discovery and Development of COVID-19
Vaccines and Therapeutics」
Nasir Khan (Pfizer Inc.)

2) 特別講演

- (1) 「睡眠の謎に挑む: 『眠気』の正体を求めて」
柳沢正史 (筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構)
- (2) 「脳と AI の協創で拓かれる世界 (仮題)」
池谷裕二 (東京大学大学院 薬学系研究科)
- (3) 「魚が切り拓く先制医療研究」
石谷 太 (大阪大学微生物病研究所 環境応答研究部門)
- (4) 「染色体工学技術による毒性研究最前線」
香月康宏 (鳥取大学染色体工学研究センター)
- (5) 「アカデミアからの創薬ナラティブ」
萩原正敏 (京都大学大学院医学研究科 生体構造医学講座)
- (6) 「モロシヌスマウスの遙かな旅」
城石俊彦 (理化学研究所バイオリソース研究センター)
- (7) 「日本の有機フッ素化合物による環境汚染とその
毒性基本情報」
小泉昭夫 (公益社団法人 京都保健会 社会健康医学福祉研究所)
- (8) 「細胞外小胞の医療応用の期待と課題: 毒性学の
観点からの考察」
落谷孝広 (東京医科大学 医学総合研究所 分子細胞治療研究部門)

3) 教育講演

- (1) 「ヒト性染色体と環境」
深見真紀 (国立成育医療研究センター 分子内分泌研究部)
- (2) 「NRF2 活性化がん：古き実験動物モデルから診断と治療に向けて」
田口恵子 (東北大学大学院医学系研究科 医化学分野)
- (3) 「依存性物質の神経系への毒性：子ども，発達期での影響を含めて」
池田和隆 (公益社団法人 東京都医学総合研究所 精神行動医学研究分野)

4) 年会長講演

- 「生命科学のパラダイムシフトと毒性学の進展」
北嶋 聡 (国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 毒性部)

5) フロンティアセミナー

- 「AlphaFold2 によるタンパク質立体構造予測を利用した毒性評価の試み」
武田一貴 (北里大学獣医学部獣医学科)

6) シンポジウム

- (1) 医薬品開発におけるバイオマーカー戦略の現状と展望
- (2) 毒性オミクスの毒性エピジェネティクスとしての展開と人工知能解析
- (3) (本部企画・生体金属) 生体金属部会シンポジウム ～金属毒性学の 50 年史とこれからの 50 年にかかる期待～
- (4) ミクログリア毒性学
- (5) Next Generation Risk Assessment (NGRA) における New Approach Methodologies (NAMs) 開発の現状、課題、展望
- (6) 医薬品製剤の Extractables と Leachables の安全性評価の考え方
- (7) (本部企画・医薬品毒性機序) 医薬品毒性機序研究部会シンポジウム ～毒性機序研究を拓く先端技術の現状と展望～
- (8) 化学物質のアダクト形成を介した新規毒性機構の解明とその検出
- (9) 心臓の頑健性・破綻の制御と毒性評価への展開
- (10) 製薬業界における DX の実践～毒性研究 / 非臨床領域編
- (11) 発生発達期暴露による神経行動毒性の新たな課題
- (12) 法中毒学の教育・研究における新たな潮流と毒性学との連携
- (13) 細胞周期制御の破綻に起因する発がん研究の展開
- (14) 医薬品における雄性生殖を介した発生毒性リスクの考え方
- (15) 医薬品開発における非臨床試験の現状と課題：製薬企業と CRO の立場から考える
- (16) (本部企画・連携) 【SOT 合同シンポジウム】 Approaches for assessment of environmental exposures and immunotoxicity during susceptible life stages
- (17) ゲノム不安定性をみる～遺伝毒性研究のホットトピック～
- (18) 毒性研究・安全性評価におけるデータサイエンスの活用と今後の展望
- (19) (本部企画・連携) 【日本癌学会合同シンポジウム】 抗がん剤開発と毒性
- (20) (本部企画・連携) 【日本免疫毒性学会合同シンポジウム】 免疫毒性学ってナンダ？ - “働く免疫細胞” に起こる毒性影響、活性化と抑制 -
- (21) (本部企画・連携) 【日本薬理学会合同シンポジウム】 薬物副作用に関わる性差
- (22) (本部企画・連携) 【日本毒性病理学会合同シンポジウム】 日本毒性病理学会からのトピック：病理学的観点から見た化合物による毒性反応の種差
- (23) シグナル伝達相互作用による発生制御機構とその破綻による発生毒性の予測
- (24) (本部企画・学術) 【次世代研究セミナー】 電磁波技術の毒性学への応用 - 見えないものを見る挑戦 -
- (25) 解毒の種差を探る
- (26) フッ素の基礎化学と医薬品開発における現状と展望及び多フッ素化有機化合物の毒性学
- (27) (本部企画・連携) がん原性試験の新しい枠組み～ WoE アプローチの実装
- (28) (本部企画・企画戦略) 【企画戦略シンポジウム】 学際的毒性学を目指して：医療医学系への拡大
- (29) (本部企画・学術) 【キャリア形成支援プログラム】 トキシコロジストのキャリア形成支援プログラム：デジタル時代の人材育成と教育

- (30) (本部企画・生体金属) 生体金属部会シンポジウム ～金属による生殖毒性～
- (31) エピジェネティクス研究の新機軸～モデル動物からヒトまで～
- (32) エクソソーム研究の最前線
- (33) Microphysiological system (MPS) 技術の現状と課題：医薬品・化学品開発と規制への応用に向けて
- (34) 【日本内分泌攪乱化学物質学会共同シンポジウム】子供の脳の毒性学：外来性分子が引き起こす高次脳機能の変調の機構解明
- (35) (本部企画・連携) 【日本中毒学会合同シンポジウム】中毒学における新技術と臨床
- (36) 途上国で「今」起きている環境汚染とその毒性影響
- (公募1) オルガノイドの化学物質・食品応用への安全性評価と将来
- (公募2) 抗ウイルス薬の安全性研究とその展望
- (公募3) 胆汁排泄, 胆汁うっ滞評価の新機軸 — 胆汁排泄, 胆汁うっ滞のヒト予測向上を求めて
- (公募4) New modality に対する初期毒性評価戦略

7) ワークショップ

- (1) 獣医学分野における毒性学教育
- (2) Target Safety Assessment (TSA) — 医薬品候補品の効率的な創出を目指して
- (3) シン・毒性質問箱～ (大) 動物種の選択について考える

8) イブニングフォーラム

毒性オミクスフォーラム

9) 第20回市民公開セミナー

テーマ トクホってナンだ？

—いわゆる健康食品との違い—

日時 2023年6月18日(日)

10:30～12:30(開場10:00)(予定)

会場 パシフィコ横浜 会議センター 4F 413(予定)

司会 北嶋 聡(国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 毒性部 部長)

後援 一般社団法人 横浜市薬剤師会

プログラム(予定)

- (1) 人生100年時代を見据えたトクホの活用 ～トクホの過去・現在・未来～
受田浩之(高知大学理事・副学長, 内閣府消費者委員会委員長代理)
- (2) いわゆる健康食品の安全性 ～なぜ, 健康被害が起こるのか～
千葉 剛(国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 食品保健機能研究部 部長)
- (3) 食品衛生法に基づく指定成分制度
今井美津子(厚生労働省 医薬・生活衛生局 食品基準審査課 新開発食品保健対策室 室長)

7. 一般講演演題募集

- 1) 2023年3月31日まで受け付ける予定です。一般講演は口演及びポスターでの発表となります。発表は会員のみとなりますので非会員の方は、日本毒性学会ホームページ(<http://www.jsot.jp>)にて入会の手続きをお願いします。
なお、ポスターとスライド作成は、原則英語となります(口頭発表及び討論は日本語で構いません。英語による発表・議論も可です)。
※本年会は現地開催を予定しております。ご発表は現地会場をお願いします。
- 2) 演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。下記8に記載する「演題登録要領」を参照の上、年会ホームページから登録して下さい。

演題申込締切日：2023年3月31日(金)

- 3) 一般演題は口演またはポスター発表とします。口演発表につきましては、発表と討論の時間を合わせて10～15分程度を予定しています。詳細は、演題申込数を考慮の上、決まり次第 主発表者へ E-mailにてお知らせいたしますので、ホームページなどでご確認下さい。発表方法は液晶プロジェクターのみです。ポスター発表は、毎日貼替えでポスター展示を行い、途中で質疑応答時間を設けます。

◆ポスター発表 質疑・応答(コアタイム) <予定>

6月19日(月) 17:30～18:15

6月20日(火) 16:55～17:40

6月21日(水) 13:15～14:00

4) 優秀研究発表賞応募演題

2023年3月31日時点で35歳以下の方を対象として候補者を募集します。応募者は演題申込時にその旨登録して下さい。応募者はポスター発表に加え、別会場で口頭発表と質疑応答を第1日目(6月19日(月))に行っていただきます。受賞者の発表は、第2日目(6月20日(火))夕方に、授賞式は情報交換会(無料招待)において、状況によりましては、第3日目(6月21日(水))午前中に行う予定です。授賞式等詳細は、年会ホームページにて追ってご案内いたします。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

5) 学生ポスター発表賞応募演題

年会(2023年6月19日(月))の時点で学生(大学院生を含む、ただし社会人大学院生は除く)のポスター発表(筆頭著者)の方を対象とします。応募者は演題申込時にその旨登録して下さい。審査はポスター発表内容のみで行います。対象のポスターは第1日目(6月19日(月))に行っていただきます。受賞者の発表は、第2日目(6月20日(火))夕方に、授賞式は情報交換会(無料招待)において、状況によりましては、第3日目(6月21日(水))午前中に行う予定です。授賞式等詳細は、年会ホームページにて追ってご案内いたします。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

※ 上記、4)、5)の賞への重複申請は不可とします。

8. 演題登録要領

演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。締め切り間際はアクセス集中によりサーバー処理能力が極端に低下します。そのため、登録に時間を要する、あるいは登録が完了できないといった事態が生じることが予測されますので、演題募集要領と年会ホームページを熟読した上で、余裕をもって登録して下さい。

◆登録方法ならびに登録確認・訂正◆

年会ホームページにアクセスし、演題募集のメニューより案内に従って、次の流れのように登録を進めて下さい。

なお、演題登録は発表者本人が行って下さい。

発表者個人情報登録→一般演題登録→

共著者・演題情報登録→登録内容確認→登録完了

1) 発表者個人情報登録

発表者は本学会会員に限ります。登録には会員番号(5桁)が必要です。

アカウントパスワード(半角英数)は登録内容の確認や変更を行うときに使用します。8文字以上で入力して下さい。なお、アカウントパスワードはマイページの「パスワード変更」より変更することが可能です。入力したパスワードは各自で大切に記録・保管して下さい。

2) 共著者・演題情報登録

2-1) 共著者情報登録

共著者の氏名・所属を入力して下さい。

共著者数は最大20名、所属機関名は最大15施設まで登録可能です。

2-2) 演題カテゴリー登録

詳細については、年会ホームページをご確認下さい。

2-3) 発表形式

発表形式を「口演」、「ポスター」、「どちらでも可」の中から選択して下さい。優秀研究発表賞もしくは学生ポスター発表賞に応募する場合は「ポスター」を選択して下さい。

優秀研究発表賞もしくは学生ポスター発表賞への応募の有無を選択して下さい。

2-4) 演題名

文字数については、下記を目処にお願いします。

日本語演題名 文字数：

最大全角80文字(スペース含め)

英語演題名 文字数：

最大半角200文字(スペース含め)

なお、演題名に特殊文字/上付き/下付き/ボールド/イタリックなどの入力方法については、登録システムをご確認ください。

2-5) 要旨作成要領

日本語及び英語の要旨のご提出をお願いします。(日本語のみでの登録はできません)。本文の文字数は、日本語：全角として800字以内、英語：半角として1600字以内(スペース含む)です。上記文字数を超えると登録できませんの

ご注意ください。本文中に演題名・所属・氏名・
 図表等を入れないで下さい。

2-6) 利益相反

年会ホームページの演題募集のページにて COI
 規程をご確認の上、演題登録時に COI の有無を
 選択して下さい。

3) 登録内容確認・訂正

演題募集期間中はマイページより演題内容の確認・
 訂正ができます。

4) 登録完了

登録が完了すると演題登録番号が表示されます。登
 録したメールアドレス宛てに演題登録完了メールが
 送信されますので確認して下さい。翌日まで経過し
 てもメールが届かない場合は、連絡事務局までご連
 絡下さい。

9. 参加登録および参加費

事前参加・懇親会申込締切日：
 2023年4月19日（水）（予定）

1) 参加費

※学会会員の参加費は「不課税」、関連学会会員、非
 会員の参加費と懇親会費は「課税（消費税込）」と
 なります。

カテゴリー	事前参加 登録	当日参加 登録
会員	12,000 円	14,000 円
学生会員	3,000 円	4,000 円
関連学会員 ¹⁾	13,000 円	15,000 円
非会員	15,000 円	17,000 円
VODのみ	17,000 円	17,000 円
情報交換会費（一般）	10,000 円	12,000 円
情報交換会費（学生）	4,000 円	5,000 円

※ VOD とは「ビデオオンデマンド」の略で、インター
 ネットに接続しているスマートフォンやパソコン
 などの端末で、随時視聴できるサービスです。
 現地参加された方及び VOD のみ申し込んだ方は、

年会終了後 1 ヶ月間（予定）は追加費用無く VOD
 をご利用いただけます。

※「VODのみ」の方は現地参加していないため、恐
 縮ですが、参加証は発行されず、認定トキシコロジ
 ストの単位に反映されませんので、ご注意下さい。

* 1 は次の学会会員の方を予定しております。

◇共催学会：

- （一社）日本中毒学会
- （一社）日本毒性病理学会
- 日本免疫毒性学会
- （公社）日本薬理学会
- 米国 SOT（Society of Toxicology）
- 韓国 SOT（Korean Society of Toxicology）

◇協賛学会（2023年4月時点）

- （一社）日本安全性試験受託研究機関協議会
- 日本安全性薬理研究会
- （一社）日本環境化学会
- 日本環境毒性学会
- （一社）日本衛生学会
- 日本環境変異原ゲノム学会
- （公社）日本産業衛生学会
- （公社）日本実験動物学会
- （公社）日本獣医学会
- （一社）日本生理学会
- 日本先天異常学会
- （公社）日本動物学会
- （一社）日本発生生物学会
- 日本内分泌攪乱化学物質学会（環境ホルモン学会）
- （公社）日本薬学会
- （一社）日本薬物動態学会
- 日本食品化学学会
- 比較眼科学会

◇後援学会（2023年4月時点）

- 日本食品微生物学会
- （一社）和漢医薬学会

2) お支払い方法

- ・事前参加登録：クレジットカードのみ
- ・当日参加登録：現金のみ
 - ※決済等の詳細については、年会ホームページをご覧ください。
 - ※年会参加費には、下記が含まれます。
 - ・年会参加証
 - ※「VODのみ」の場合、参加証は発行されません。
 - ・年会プログラム要旨集（冊子体、PDF）
 - ※冊子体は事前郵送（事前参加登録の場合）若しくは会場配布（当日参加登録の場合）、PDFは年会ホームページからダウンロードを予定しています。
 - ※情報交換会費には、下記が含まれます。
 - ・情報交換会参加証

10. 情報交換会（予定）

次の通り、情報交換会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。

日 時 2023年6月20日（火）18：30～

場 所 ヨコハマグランドインターコンチネンタル
ホテル 3F Ballroom

11. 展示・ランチョンセミナーなどの募集

展示、ランチョンセミナー、広告掲載を募集します。
詳細については年会ホームページ「企業展示・広告等を希望される皆様へ」をご覧ください。

12. 年会事務局、連絡事務局

年会事務局
〒210-9501 川崎市川崎区殿町 3-25-26
国立医薬品食品衛生研究所
安全性生物試験研究センター・毒性部
相崎健一、小野竜一、桑形麻樹子、高橋祐次
e-mail: secretariat@jsot2023.jp

50回記念担当：
務台 衛（（株）LSIM 安全科学研究所）
広報担当：安西尚彦（千葉大学）

連絡事務局
〒106-0041 東京都港区麻布台 1-11-9
株式会社コンベックス内
e-mail: jsot2023@convex.co.jp

13. その他

50回の記念の意を込め、J-STAGE 非掲載の第1回（1975年・昭和50年）～第31回（2004年・平成16年）までの年会要旨集のPDF化をおこない、年会ホームページに掲げております。また、事前参加登録者のみなさまにお届けする封筒色は、花緑青（アセト亜ヒ酸銅）色を意識した色を選んでおります。

日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第2報）

教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページおよび毒性学ニュースでお知らせします。

なお、学会主催講習会は、トキシコロジーに関する知識（基礎知識）を幅広く学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとしての知識をアップデート・ブラッシュアップする生涯教育講習会として位置付けすることを基本方針として開催いたします。

「第26回日本毒性学会基礎教育講習会」

本講習会はトキシコロジストの系統的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。また、トキシコロジー全般にわたる理解を深めたうえで、日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験受験にお役立て下さい。講習は動画配信形式で行います。受講者の皆様には4月下旬にダウンロード方法をご案内いたします。

1. 日時

2023年4月26日（水）～認定トキシコロジスト試験前まで

2. 形式

オンデマンド動画配信

3. 申込

終了しました。

4. 受講料

一般会員	25,000円
学生会員	5,000円
非会員	30,000円
学生非会員	8,000円
認定トキシコロジスト	20,000円

*領収書につきましては、参加証と一緒に送付いたします。宛名のご指定がある場合は、申込時に入力下さい。

*キャンセルに伴う返金に関しては、講習会資料事前案内前に限り、対応します。事務局から案内後は納入済み受講料の返金は原則としていたしませんのでご了承下さい。

*申込者ご本人のみの受講となります。

*ダウンロード映像、資料の二次利用は固くお断りいたします。

5. その他

*受講修了者には受講証明書を発行します。

「第24回日本毒性学会生涯教育講習会」

本講習会では、学習フレームを、①トピック、②トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーとして実施しております。本年も同様のフレームで開催を予定しておりますので、是非、積極的なご参加をお待ちしております。

トピックスは、SOTの学術年会時に開催される教育コースから、2つのテーマを選び、新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する場としていきます。トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーでは、各種毒性反応について基礎メカニズムから社会的に最新の毒性学の話題を含め深く学習する場としていきます。また、学習テーマに関連する共通知識として「非病理学者のための病理学講義」をセミナーに組み入れていきます。講習会資料はダウンロード形式としております。受講者の皆様には6月中旬にダウンロード方法をご案内いたします。

1. 日時

2023年6月19日（月）～7月3日（月）

2. 形式

オンデマンド動画配信

3. プログラム（仮）

1) トピックス SOT2023

竹村 晃典 先生（千葉大学大学院）

「AM04: Beyond the Powerhouse: Investigating Mechanisms of Mitotoxicity; Following the course, attendees will have a clear understanding of the highly dynamic roles mitochondria play within the cell and at tissue and organismal level and the challenges and current solutions to analysis of mitochondrial endpoints, as well as a new perspective on the role of mitochondria in toxicological mechanisms.」

黒田 雄介 先生 (日産化学株式会社)

「PM10: In Vitro to In Vivo Extrapolation Strategy and Guidance across Organ System Toxicities; Based on gaps in IVIVE guidance, this Continuing Education course will explore successful IVIVE studies across research sectors and highlight important strategy and principles critical for regulatory consideration.」

- 2) トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナー：
“環境・医薬品・化学品等、それぞれの領域における代替法の最前線”

山本 裕史 先生 (国立環境研究所)

「環境、医薬品、化学品等の代替（試験）法の国際動向～主に生態毒性について」

小野 敦 先生 (岡山大学学術研究院・医歯薬学域)

「化学品領域における新たな安全性評価手法の現状と展望」

奈良岡 準 先生 (アステラス製薬株式会社)

「医薬品開発における動物実験代替法の最前線」

古川 賢 先生 (日産化学株式会社)

「非病理担当者のための病理学講座 - げっ歯類と似てそうでちょっと違う魚の正常組織と病理組織学的変化 -」

4. 申 込

- 1) 2023年4月3日（月）～5月19日（金）
- 2) 申込方法
当学会ホームページよりお申込下さい。登録後、期限内に次項の要領で受講料を納入下さい。受講料入金の確認後追って受講案内をお送りします。
- 3) 納入方法
ホームページよりお申込の上、下記銀行口座へお振込み下さい。
銀 行：みずほ銀行
支 店：麴町支店（021）
口座番号：普通 1348658
口座名義：一般社団法人日本毒性学会
*振込手数料はご負担ください。
*ご所属名でお振込みの際は、事務局までメールで受講者氏名（会員の方は会員番号）、所属、振込日、振込金額をご連絡下さい

5. 参加費

会 員：5,000 円
非会員：7,000 円
認定トキシコロジスト：3,000 円

「第26回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験」

我が国の安全性試験の信頼性向上とトキシコロジーの進歩に寄与するため、質の高い専門家を認定するための試験です。受験資格の詳細については、毒性学ニュース及び学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程』をご覧ください。日本語・英語いずれかの受験になります。英語受験を希望する場合は、願書の英語受験希望欄にチェックを入れてください。

1. スケジュール

2023年11月5日（日）/予備日:11月12日（日）
自然災害等により11月5日に試験開催が困難であると判断した場合に、予備日に実施します。なお、試験開催を延期する場合には、2日前までに受験者へご連絡いたします。

2. 会 場 (予定)

昭和大学 旗の台キャンパス

3. 受験料

30,000 円

「認定トキシコロジスト資格の更新」

2003年、2008年、2013年、2018年に認定トキシコロジストに認定された方となります。詳細は2023年4月頃にメールをお送りいたしますのでご確認ください。

毒性学ニュース、学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則』をご覧ください。

「認定トキシコロジスト試験問題作成依頼について」

資格更新のための試験問題作成の依頼は6月上旬、締め切りは8月中旬を予定しています。なお、可能な限り、2018年3月発刊の「第3版トキシコロジー」からの出題をお願いいたします。その他、詳細につきましては、2023年6月にご案内いたします。

第49回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第49回日本毒性学会学術年会の要旨集（CD-R）を1枚3,500円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第32回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	一般社団法人日本毒性学会
要旨集価格	3,500円（1枚）

通信欄記入事項：①住所 ②氏名（団体の場合は機関名・部署等） ③電話番号
④第49回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送付いたします。詳細なご記入をお願いいたします。

問い合わせ先：一般社団法人 日本毒性学会
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
パレスサイドビル
（株）毎日学術フォーラム
TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555
E-mail：jsothq@jsot.jp

その他のお知らせ

シンポジウム 「モレキュラーキラリティー 2023」

主催 Molecular Chirality Research Organization
(MCRO)

会期 6月15日(木)～16日(金)

開催方式 対面式

会場 北海道大学 フード & メディカルイノベーション
国際拠点 (FMI) (札幌市北区北 21 条西 11 丁目)
<https://www.fmi.hokudai.ac.jp/access/>

発表申込締切

口頭発表 4月14日(金)

ポスター発表 5月12日(金)

参加登録予約申込締切

5月19日(金)

討論主題

キラル化合物の薬理・毒性・体内動態, キラル分析, キラル検出, 光学分割, 不斉合成, 機能性キラル材料, 不斉の起源, キラル化合物の工業的生産

発表形式

口頭発表(一般講演): 15件(予定)

ポスター発表: 80件(予定)

招待講演(五十音順)

- (1) 赤木 和夫(立命館大学)
- (2) 伊藤 喜光(東京大学)
- (3) 井上 克也(広島大学)
- (4) 川崎 常臣(東京理科大学)
- (5) 七分 勇勝(北海道大学)
- (6) 浜瀬 健司(九州大学)
- (7) 林 雄二郎(東北大学)
- (8) 森崎 泰弘(関西学院大学)

参加登録費 一般: 8,000円(当日 10,000円)

学生: 4,000円(当日 5,000円)

発表申込・参加登録予約申込方法

詳細はHPをご覧ください

申込先/問合先

〒001-0021

札幌市北区北 21 条西 11 丁目

次世代物質生命科学研究所棟 4 階 MC2023 事務局

電話 (011) 706-9048 E-mail: mc2023@sci.hokudai.ac.jp

HP: <https://www.ec-mice.com/mc2023/index.html>

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

日本毒性学会の定款および規程類については、最新版が学会ホームページ (http://www.jsot.jp/about/rule_list.html) に掲載されています。

2022年9月2日付で「研究倫理要綱」と「研究倫理問題に関する規程」が新たに制定されました。学会ホームページでご確認をお願いします。

一般社団法人日本毒性学会 定款

- 一般社団法人日本毒性学会 研究倫理要綱
- 一般社団法人日本毒性学会 研究倫理問題に関する規程
- 一般社団法人日本毒性学会 動物実験に関する指針
- 一般社団法人日本毒性学会 入会規程
- 一般社団法人日本毒性学会 賛助会員に関する規程
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉会員・功労会員推薦規程
- 一般社団法人日本毒性学会 評議員選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事・監事選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事および監事候補の選出に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 常置委員会共通規程
- 一般社団法人日本毒性学会 部会に関する規程
- J. Toxicol. Sci. 投稿規程
- Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 特別賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞）選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会貢献賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 奨励賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 技術賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 田邊賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 ファイザー賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 日化協 LRI 賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの資格更新に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉トキシコロジスト表彰に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 米国毒性学会教育コースへの学会員派遣に関する規程
- 一般社団法人日本毒性学会 個人情報の適正な管理・利用等に関する基本方針

高い再現性と信頼性で短期発がん性試験を実現したモデルマウス

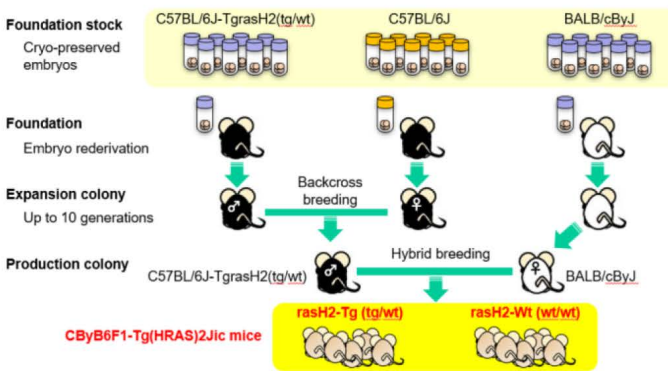
rasH2マウス



rasH2マウスは（公財）実験動物中央研究所（実中研）、東海大学医学部、国立がんセンター研究所（当時）との共同研究により開発されました（Saitoh A. et al., Oncogene. 1990）。その後1993年に実中研で発がん性評価試験の実用化を開始、1997年から2001年の5年間における日米欧の産官学50施設の国際共同研究 (ILSI/HESI)によってrasH2マウスの高いがん性評価の再現性、安定性が証明されました。当社では、2001年より本格的生産・供給をしております。2022年現在、遺伝子改変マウスによる短期発がん性試験のスタンダードモデルとして認知され、世界各国で利用頂いております。

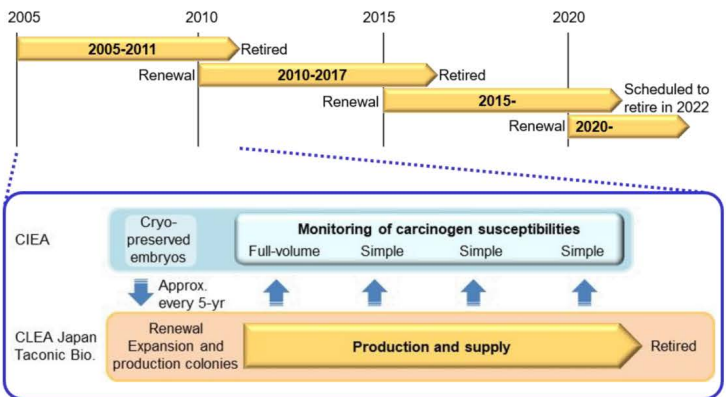
rasH2マウス: 生産システム

◆ rasH2マウスの“発がん感受性”の永続的・安定的な維持と安定供給のためにデザインされた生産システム



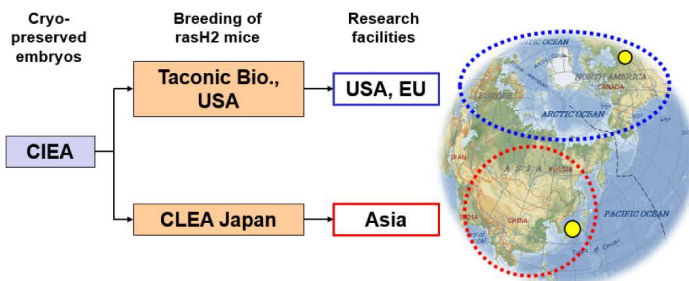
rasH2マウス: 品質管理システム

◆ rasH2マウスの“発がん感受性”を確認・保証するためにデザインされた品質管理システム

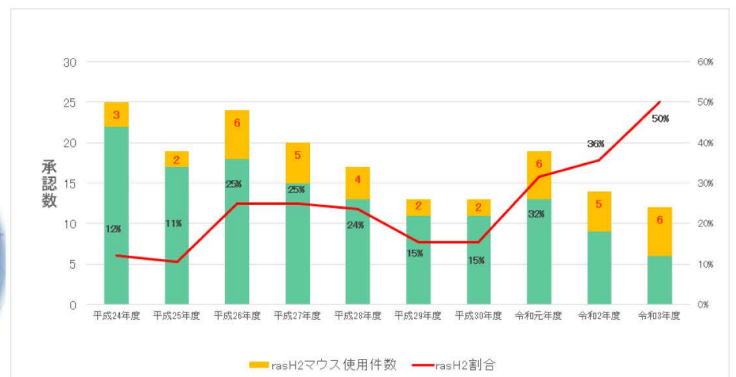


rasH2マウス: グローバルな安定供給体制

◆ 日本クレア、Taconic Biosciencesにて、定められ生産システムに基づきrasH2マウスを生産し、世界各国に供給しています



発がん性試験が実施された医薬品の承認状況



図：日本国内の過去10年間の発がん性試験推移 (PMDAのHPより独自調査)

受注センター
 東京 A D 部 〒153-8533 東京都目黒区東山 1 - 2 - 7
 大阪 A D 部 〒153-8533 東京都目黒区東山 1 - 2 - 7
 〒564-0053 大阪府吹田市江の木町 6 - 5
 仙台出張所 〒983-0014 宮城県仙台市宮城野区高砂1-30-24
 札幌出張所 〒063-0849 北海道札幌市西区八軒9条西10-4-28
 名古屋出張所 〒465-0093 愛知県名古屋市名東区一社3-79

TEL 03-5704-7123 FAX 03-3792-2368
 TEL 03-5704-7050 FAX 03-3792-2032
 TEL 06-4861-7101 FAX 06-4861-7108
 TEL 022-352-4417 FAX 022-352-4419
 TEL 011-631-2725 FAX 011-644-9209
 TEL 052-715-7580 FAX 052-715-7590



日本クレア株式会社

<http://www.CLEA-Japan.com>

Shin Nippon Biomedical Laboratories, Ltd.

創薬と医療技術の向上を支援し、
人類を苦痛から解放することを
絶対的な使命とします



(株)新日本科学は60年以上にわたる
豊富な経験と実績に裏付けされた確かな技術力により
質の高いサービスとニーズに合わせたソリューションを提供します



株式会社 新日本科学

<https://www.snbl.co.jp> mail: info@snbl.com



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



新薬の研究開発に 寄り添う技術力

実験には、様々なノウハウと
手技が求められます。

私たちは、「研究する心・想像する心」で
日々研鑽し、新しい技術の開発に
取り組んでいます。

明日の医療の発展を願って…

医薬品・医療機器・再生医療等製品の開発支援
各種GLP適合・AAALAC International 完全認証施設

・安全性試験・薬効試験・各種検査
・臨床試験・翻訳サービス・SENDサービス



株式会社新日本科学グループ
Ina Research Inc.
<https://www.ina-research.co.jp>

ケー・エー・シーでは医薬品の研究・開発にお使いいただける 細胞・ヒト由来試料を取扱っております

研究用試薬

HepaRG®・初代肝細胞



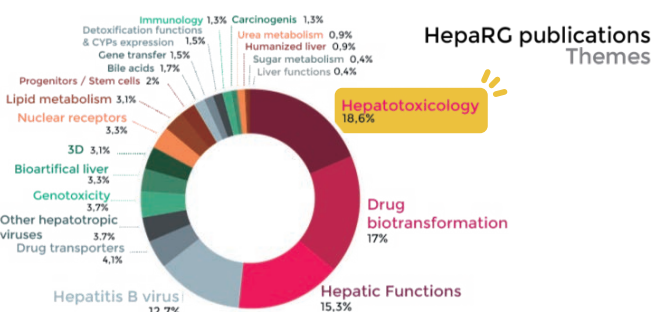
HepaRG®は、BIOPREDIC International社がライセンスを保有するヒト肝細胞セルラインです。肝細胞様形態を呈し、各種肝機能を保持・発現しており、ヒト初代肝細胞の代替ツールとして毒性試験および薬物動態などに広く利用されています。

➤ HepaRG®は様々な毒性評価に使用可能！

- ✓ ミトコンドリア毒性の評価
- ✓ 反応性代謝物による肝毒性評価
- ✓ 炭水化物および脂質代謝評価
- ✓ 胆汁うっ滞の評価

また、弊社ではBIOPREDIC International社をはじめとして、様々なメーカーで調製された品質の良い初代肝細胞（ヒト、ラット、イヌ、サル等）もご用意しております。

➤ HepaRG®を使用した論文が多数発表されている中、毒性試験で多く使用されています！



ECACC標準株細胞・核酸製品

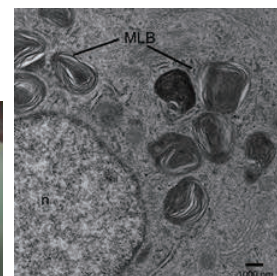
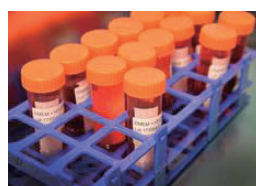


欧州最大の公的セルバンクであるECACCのセルリソース（標準株細胞・核酸製品）を、KAC独自のサービスとともに、**面倒な手続きなし***でお届けしています。

*：一部の細胞は、提供にあたり確認審査が必要になります。

➤ メリット！

- ✓ スタンダードな株細胞は国内に常時在庫
- ✓ プラス5,000円で、培養状態での提供可能
- ✓ 幾つかの起眠が難しい細胞はKACが代行
- ✓ KACによる迅速な技術サポート体制



肝毒性・腎毒性評価の受託試験



薬物トランスポーター研究のパイオニアであるSOLVO Biotechnology社にて、肝毒性・腎毒性評価試験などのサービスの提供も行っております。

➤ 試験例

- ✓ 代謝が遅い化合物の肝毒性評価（ヒト、サル、ラット、イヌ）
（HepatoPac®：初代肝細胞と間質細胞のマイクロパターン共培養にて評価）
- ✓ 早期腎障害バイオマーカーパネルを用いた腎毒性の可能性の評価 等



<https://www.saibou.jp/>



▶ これらの製品情報を細胞.jpでご調べ頂けます



株式会社 ケーエーシー

<https://www.kacnet.co.jp/>

お問い合わせ先

試薬事業部

TEL:06-6435-9747 FAX:06-6435-9748

e-mail: shiyaku-info@kacnet.co.jp

SLCの実験動物



マウス

●アウトブリード

Sic: ddY
☆ IVCS
Sic: ICR

●インブリード

DBA/1JmsSlc(コラーゲン薬物誘導関節炎)

BALB/cCrSlc

C57BL/6NjCrSlc-C57BL/6JmsSlc

C3H/HeSlc

C3H/HeNSlc

C3H/HeJyokSlc

DBA/2CrSlc

NZW/NSlc

A/JmsSlc

AKR/NSlc

NC/NgaSlc(薬物-アレルギー誘導アトピー性皮膚炎)

CBA/NSlc

129x1/SvJmsSlc

●B10コンジェニック

C57BL/10SnSlc

B10.A/SgSnSlc・B10.BR/SgSnSlc

B10.D2/nSgSnSlc・B10.S/SgSlc

●ハイブリッド

B6D2F1/Slc(Slc:BDF1)

Cb6F1/Slc(Slc:CBF1)

CD2F1/Slc(Slc:CDF1)

B6C3F1/Slc(Slc:B6C3F1)

※上記以外の系統については御相談ください。

●ヌードマウス(ミュータント系)

BALB/cSlc-*nu*(*Foxn1^{nu}*)

KSN/Slc(*Foxn1^{nu}*)

●疾患モデル

BXSB/MpJmsSlc-*Yaa*(自己免疫疾患)

C3H/HeJmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患-*Fas^{lpr}*)

C57BL/6JmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患-*Fas^{lpr}*)

MRL/MpJmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患-*Fas^{lpr}*)

NZB/NSlc(自己免疫疾患)

NZBWF1/Slc(自己免疫疾患)

WB6F1/*Ki*;*Ki^W*/*Ki^W*/Slc(肥満細胞欠損質血-*Ki^W*/*Ki^W*)

NC/Nga(皮膚炎)

☆ Hos: HR-1(ヘアレスマウス)

☆ Hos: HRM-2(メラニン保有ヘアレスマウス)

★ SAMR1/TaSlc(SAMP系対照動物)

★ SAMP1/SkuSlc(老化アミロイド症)

★ SAMP6/TaSlc(老年性骨粗鬆症)

★ SAMP8/TaSlc(学習記憶障害)

★ SAMP10/TaldSlc(脳萎縮-うつ様行動)

★ SAMP10-ΔSglt2

(SGLT2変異による腎性糖尿-脳萎縮を伴う学習記憶障害-うつ様行動)

★ AKITA/Slc(糖尿病)

☆ TSOD(2型糖尿病)

C57BL/6JHamSlc-*ob/ob*(肥満-2型糖尿病-*Lepr^{ob}*)

☆ C57BL/KS/JmJ-*Lepr^{ob}*+*Lepr^{ob}*(肥満-2型糖尿病-*Lepr^{ob}*)

☆ NSY/Hos(2型糖尿病)

★ Daruma(肥満)

★ HIGA/NscSlc(1gA腎症)

★ B6.KOR/StmSlc-*ApoE^{sh}*(アポE欠損高脂血症-*ApoE^{sh}*)

★ C.KOR/StmSlc-*ApoE^{sh}*(アポE欠損高脂血症-*ApoE^{sh}*)

★ C.KOR/StmSlc-*Traf3ip2^{sh}*(アトピー性皮膚炎マウス-*Traf3ip2^{sh}*)

ラット

●アウトブリード

Sic: SD

Sic: Wistar

Sic: Wistar/ST

Hos: Donryu

☆ lar: Wistar(Wistar-Imamichi)

☆ lar: Long-Evans

●インブリード

F344/NSlc

WKAH/HkmSlc

BN/SsNSlc

WKAH/HkmSlc

BN/SsNSlc

LEW/SsNSlc(薬物誘導性関節炎)

LEW/SsNSlc(薬物誘導性関節炎)

●ヌードラット(ミュータント)

Sic: Long-Evans-*rnu/rnu*

●疾患モデル

★ SHR/izm(高血圧)

★ SHRSF/izm(脳卒中)

★ WKY/izm(SHR/izmのコントロール)

★ SHRSF5/Dmcr(NASHモデル[HFC調剤給餌])

★ SHRSF/Ezo(AD/HFD)

DIS/EisSlc(食塩感受性高血圧症)

DIR/EisSlc(食塩抵抗性)

Sic: Zucker-*fafa*(肥満-*Lepr^{fa}*)

☆ Hos: ZFDM-*Lepr^{fa}*(肥満-*Lepr^{fa}*)

HWY/Slc(ヘアレスラット)

☆ Hos: OLETF(2型糖尿病)

☆ Hos: LETO(OLETFのコントロール)

モルモット

●アウトブリード

Sic: Hartley

ウサギ

●アウトブリード

Sic: JW/CSK

Sic: NZW

ハムスター

●アウトブリード

Sic: Syrian

●疾患モデル

J2N-k(心筋症モデル)

J2N-n(J2N-kのコントロール)

スナネズミ

●インブリード

MON/Jms/GbsSlc

無菌動物

F344/NSlc(GF)

☆ Tsl: C57BL/NCr

ENVIGO(旧ハランOEM生物動物)

●アウトブリードラット

RccHan[®]: WIST

●インブリードマウス

CBA/CaOlaHsd

●免疫不全モデルマウス

C.B-17/1crHsd-Prkdc^{scid}

遺伝子改変動物

■アルツハイマー病モデル(認知症病関連モデル)

★ APP^{osk}-Tg[C57BL/6-Tg(*APP^{osk}*)](認知症モデル)

★ Tau609 Tg[C57BL/6-Tg(*tau609*)](認知症モデル)

★ Tau784 Tg[C57BL/6-Tg(*tau784*)](認知症モデル)

★ APP^{wr}-Tg[C57BL/6-Tg(*APP^{wr}*)](*Apposk*の対照動物)

★ Tau264 Tg[C57BL/6-Tg(*tau264*)](*Tau609*, *Tau784*の対照動物)

—ノックインマウス—

■ OSK-KI[C57BL/6-Tg(*OSK-KI*)](認知症モデル)

■EGFPモデル

●マウス

C57BL/6-Tg(CAG-EGFP)(グリーンマウス)

●ヌードマウス

C57BL/6-BALB/c-*nu/nu*-EGFP(EGFP全身発現ヌードマウス)

●ラット

SD-Tg(CAG-EGFP)(グリーンラット)

■gpt deltaモデル

●マウス

C57BL/6JmsSlc-Tg(*gpt delta*)

●ラット

F344/NSlc-Tg(*gpt delta*)

その他(クリーン動物)

●医薬用ベビーブタ SHIZUOKA EXPIG

☆静岡県畜産技術研究所中小家畜センター

その他(conventional動物)

●ビーグル犬

☆国内繁殖生産((一財)動物繁殖研究所)

●マイクロミニピッグ

☆国内繁殖生産(富士マイクロ株式会社)

●ミニブタ

☆国内繁殖生産(日生研株式会社-NPO法人 医用ミニブタ研究所)

●フクロレト

☆自家繁殖生産(中伊豆支所)

●コモンマーマウゼット

☆自家繁殖生産(中伊豆支所)

受注生産動物

マウス

●疾患モデル

C57BL/6 JHamSlc-*tg/tg*(NK細胞活性低下)

CTS/Shi(免疫不全-白内障)(NZWxBXS8)/F1/Slc(紫斑症)

ラット

●インブリード

ACI/NSlc

●疾患モデル

GK/Slc(2型糖尿病)

FH/HamSlc(脳内セロトニン系の機能不全)

★ F344/NSlc-*Apc^{wt/wt}*(大腸癌易誘発)

Gunn/Slc-*jjj*(高ビリルビン血症)

モルモット

●アウトブリード

Hos: Weiser-Maples(メラニン保有)

ウサギ

●アウトブリード

Sic: JWf-NIBS(ヘアレス)

★印は受託生産動物、☆印は仕入販売動物です。



日本エス エル シー株式会社

〒431-1103 静岡県浜松市西区湖東町3371-8

TEL(053)486-3178(代) FAX(053)486-3156

http://www.jslc.co.jp/

営業専用
TEL

関東エリア (053)486-3155(代)

関西エリア (053)486-3157(代)

九州エリア (0942)41-1656(代)

一般社団法人 日本毒性学会

[名誉会員 (就任年度順)]

今道 友則	堀口 俊一	福田 英臣	池田 正之
加藤 隆一	井村 伸正	佐藤 哲男	渡辺 民朗
榎本 眞	小野寺 威	遠藤 仁	鎌滝 哲也
赤堀 文昭	土井 邦雄	長尾 拓	福島 昭治
津田 修治	吉田 武美	堀井 郁夫	大野 泰雄
上野 光一	山添 康	永沼 章	

[功労会員 (就任年度順)]

高仲 正	前川 昭彦	佐藤 温重	安田 峯生
菊池 康基	大沢 基保	今井 清	降矢 強
玄番 宗一	唐木 英明	仮家 公夫	暮部 勝
野村 護	牧 栄二	三森 国敏	佐神 文郎
遠山 千春	小野寺博志	杉本 哲朗	西田 信之
中村 和市	姫野誠一郎	眞鍋 淳	安仁屋洋子
横井 毅	久田 茂		

[賛助会員 (五十音順)]

●ダイヤモンド

(株)新日本科学

●プラチナ

第一三共(株)

Charles River

●ゴールド

旭化成ファーマ(株)

あすか製薬(株)

アステラス製薬(株)

(株)安評センター

EAファーマ(株)

(株)イナリサーチ

エーザイ(株)

(株)LSIM 安全科学研究所

大塚製薬(株)

小野薬品工業(株)

花王(株)

一般財団法人化学物質評価研究機構

科研製薬(株)

杏林製薬(株)

協和キリン(株)

興和(株)

三栄源エフ・エフ・アイ(株)

サントリーホールディングス(株)

(株)三和化学研究所

塩野義製薬(株)

(株)資生堂

シミックファーマサイエンス(株)

住友ファーマ(株)

住友化学(株)

(一財)生物科学安全研究所

ゼリア新薬工業(株)

千寿製薬(株)

大正製薬(株)

大鵬薬品工業(株)

武田薬品工業(株)

田辺三菱製薬(株)

中外製薬(株)

帝人ファーマ(株)

(株)DIMS 医科学研究所

トーアエイヨー(株)

東レ(株)

(一社)日本化学工業協会

日本香料工業会

日本新薬(株)

ファイザー(株)

富士フイルム(株)

扶桑薬品工業(株)

(株)ボゾリサーチセンター

Meiji Seika ファルマ(株)

持田製薬(株)

(株)薬物安全性試験センター

ライオン(株)

[役員] (2022 ~ 2023 年度)

理事長	務台 衛		
理事	朝倉 省二	安西 尚彦	上原 孝
	小椋 康光	鍛冶 利幸	菅野 純
	古武弥一郎	児玉 晃孝	佐藤 雅彦
	渋谷 淳	高橋 祐次	奈良岡 準
	広瀬 明彦	黄 基旭	福島 民雄
	宮内 慎	宮脇 出	森 和彦
	山本 千夏		
監事	天野 幸紀	三浦 伸彦	

[委員会] (2022 ~ 2023 年度)

●印：常置委員会 ◆印：小委員会

● 理事長 務台 衛

● 総務委員会	委員長	小椋 康光
◆ 連携小委員会	委員長	上原 孝
◆ 評議員選考小委員会	委員長	佐藤 雅彦
◆ 名誉会員および功労会員選考委員会	委員長	小椋 康光
◆ 指針値検討小委員会	委員長	広瀬 明彦
◆ 企画戦略小委員会	委員長	宮脇 出

● 財務委員会 委員長 森 和彦

● 編集委員会	委員長	鍛冶 利幸
	副委員長	古武弥一郎
	副委員長	藤原 泰之
◆ JTS 編集委員会	委員長	鍛冶 利幸
	副委員長	古武弥一郎
	副委員長	藤原 泰之

◆ FTS 編集委員会	委員長	永沼 章
◆ Executive Editor 小委員会	委員長	永沼 章
◆ 田邊賞選考小委員会	委員長	宮脇 出
◆ 毒性学ニュース機能強化 WG	WG 長	古武弥一郎

● 教育委員会 委員長 高橋 祐次
(小委員会・委員は10月末で交代)

◆ 生涯教育小委員会	委員長	黄 基旭
◆ 基礎講習会小委員会	委員長	橋本 清弘
◆ 認定試験小委員会	委員長	福島 民雄
◆ トキシコロジー 4ed. 編集 WG	WG 長	鈴木 睦

● 学術広報委員会	委員長	児玉 晃孝
◆ 学会賞等選考小委員会	委員長	上野 光一
◆ 佐藤哲男賞・学会貢献賞選考小委員会	委員長	姫野誠一郎
◆ 特別賞等選考小委員会	委員長	上野 光一
◆ 技術賞選考小委員会	委員長	三島 雅之
◆ 日化協 LRI 賞選考小委員会	委員長	渋谷 淳
◆ 学術小委員会	委員長	吉成 浩一
◆ 広報小委員会・HP 担当	委員長	児玉 晃孝
	副委員長	宮内 慎
◆ トピックス小委員会	委員長	中西 剛

その他関連の委員会

○ IUTOX 担当		
Executive Committee, Director		広瀬 明彦
○ ASIATOX 担当		
ASIATOX Councilor		田口 恵子
○ SOT 担当		熊谷 嘉人
○ 日本学術会議担当		
委員		石塚真由美

部会

○ 生体金属部会	部会長	佐藤 雅彦
○ 医薬品毒性機序部会	部会長	北嶋 聡
○ 付加体科学部会	部会長	上原 孝

[学術年会長]

第49回 (2022年) 石塚真由美
 第50回 (2023年) 北嶋 聡
 第51回 (2024年) 上原 孝
 第52回 (2025年) 黄 基旭

2023年4月1日 印刷

2023年4月1日 発行

発行人 務台 衛

編集人 鍛冶 利幸

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

(株)毎日学術フォーラム

一般社団法人日本毒性学会事務局

TEL (03) 6267-4550 FAX (03) 6267-4555

E-mail : jsothq@jsot.jp

振替 00150-9-426831

<http://www.jsot.jp>

印刷所 株式会社 センキョウ

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2

TEL (022) 236-7161